

＼ Let's Back to School! //

京都芸術大学 通信教育部へようこそ

NEW! 2022年度新設



[美術科] 書画コース

「墨」は数千年という歴史の中で多くの人を魅了してきました。ものの見方は一つではなく、さまざまな可能性を秘めています。これから墨を深く理解するためには、書画表現と真摯に向き合い多くの経験を積むことです。そのためには効率よく最短距離を進むのではなく、時には立ち止まり、寄り道する心のゆとりが必要になってきます。自分と向き合う時間、それは他人の評価ではなく自己への挑戦です。さあ、機は熟しました。新たなカリキュラムのもと、唯一無二の書画世界を創造していきましょう!

塩見貴彦 准教授

二松学舎大学文学部中国文学科卒業後、中国政府奖学金を得て中国美術学院に留学。同大学院中国画山水学科修士課程修了。2018年 第2回 ASIAN ART BIENNIAL銅賞(香港)ほか受賞歴多数。



「書」と「画」を通じて
心と対話し、筆墨で新たな
未来を創造しましょ。



[芸術学科] 芸術学コース

大学における勉強のゴールは人それぞれ。優れた卒業論文を執筆して大学院に進学したり、研究者になったりすることだけがゴールではありません。たとえば、芸術に関する哲学書を時間をかけてじっくり読む、ひとつの芸術作品について深く考察する、博物館や美術館で研究対象と出会う、学友や家族と芸術談義にふける、というように生涯にわたって日頃の生活の中で学んだ成果を大いに楽しむことができます。

金子典正 教授

早稲田大学文学研究科博士後期課程満期退学。博士(文学)。専門は仏教美術史、東洋美術史。「アジアの芸術史造形編I 中国の美術と工芸」(2013)など著書、共著多数。



豊かな人生を目指して
芸術をめぐる知の旅へ



[芸術学科] 文芸コース

想いや考えを文章でうまく表現したいという人は誰もが望むことではないでしょうか。小説やエッセイはもちろんのこと、詩や戯曲、旅行記、さらには文芸評論など、さまざまな種類の文芸作品を仕上げます。それらを通じて書く技法を学びます。読むことと書くことを通じて、自分自身と向き合い、表現する。それが文芸コースの学びです。



さまざまな文芸作品を
読みひとに伝わる文章を
書いてみましょ。

コース別説明(LIVE配信)

で直接先生たちに会おう!

お申込はこちらから→



[芸術教養学科]

芸術的素養や知識、考え方をもって今の自分を高めたい、創造的な思考を仕事や生活に活かしたいと意欲を持たれている方にぜひ。

芸術の本来の意味は「人間を自由にする学問」。芸術を学ぶことで個人のチカラを拡張し、真に自由な人としての教養を身につけることなのです。

そんな芸術教養を備えた社会人が増えることで、この社会はきっとより良く変わっていくと信じています。



ひとりでも多くの社会人に、
自分の生活を高める感性と
力を手に入れてほしい

早川克美 教授

武蔵野美術大学工芸工業デザイナー学科卒業。東京大学大学院学際情報学府修了。GKインダストリアルデザイン研究所、GK設計を経て2003年F.PLUS設立。同代表・アートディレクター。



[芸術学科] 歴史遺産コース

今日に遺されてきた形ある「もの」(美術工芸、建築、庭園、古文書など)、形のない「もの」(芸能、祭、習俗など)は、歴史や宗教、思想など人々の「こころ」をともなってきたからこそ、長い年月のなかで大切に守られてきました。

私たち自らが「もの」と「こころ」の実際を知り、理解しなければ、文化遺産は伝えられません。過去を知り、現在を考え、未来につなぐ、その学びの場が歴史遺産コースです。



日本の歴史遺産の
未来はわたしたちに
委ねられています

栗本徳子 教授

同志社大学文学部文化学科卒業。日図デザイン博物館学芸員を経て、同志社大学文学研究科博士課程前期修了、同博士課程後期単位修得退学。共著に「文化史学の挑戦」(思文閣出版/2005)等。



[芸術学科] 和の伝統文化コース

本コースでは、能楽、歌舞伎、茶の湯、生け花など諸々の伝統文化を広く学習の対象としています。伝統文化といっても、固まった知識や作法として捉えるのではなく、現代人である我々が生活していく中で活かせるような柔らかい知恵として、伝統文化を考え、身につけることを目指しています。また、個々の伝統文化を別々に身につけるのではなく、それらに貫徹する「こころ」を見出しができればと考えています。



生活に生きる柔らかい
知恵として伝統文化を
身につけませんか

森田都紀 准教授

東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了。博士(音楽学)。日本学術振興会特別研究員(PD)等を経て現職。専門は芸能史、日本音楽史。とくに能の演奏技法の伝承を研究。



安藤善隆 准教授

関西大学法学部卒業。編集者・文筆家。びあ株式会社入社後、びあ関西版編集長などを務め、現在は様々な媒体に評論、コラム、インタビュー等を執筆するほか、長年戯曲賞応募作の選考にも携わる。

＼ Let's Back to School! ／

京都芸術大学 通信教育部へようこそ

コース別説明(LIVE配信)

で直接先生たちに会おう!

お申込はこちらから→



[芸術学科] アートライティングコース

本コースは芸術や文化の書き手を育てる目的としています。広く世界の芸術史や芸術理論の基礎知識を学びつつ、芸術についての研究や批評などの専門的なアプローチ方法を習得。他者に伝わる批評的(クリティカル)な文章の作成を実践的に学びます。自分が発見し、「すばらしい!」「面白い!」と思えるアートや文化活動の価値をことばにして他者に伝えたい、広く発信してみたいという学生を求めてています。

大辻都 教授



プロの書き手を目指す方
ことばで生活を豊かに
したい方お待ちしています

東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。専門はフランス語圏文学および現代文学全般。著書に『渡りの文学』(法政大学出版局/2013年)など。



[美術科] 日本国画コース

絵が好きな方、新しいことを始めてみようというチャレンジ精神旺盛な方、自然を愛する方…そしてすべての方に。初めてでも心配ありません。ひとつひとつの学びによって、絵が上手くなるだけではなく、生活の中に発見が増え、描くほどに自分のこころを成長させることができます。卒業後にこそどんどん活躍していただけるよう、焦らずじっくりと、そして楽しく力をつけていきましょう。



人生の支えとなる
日本画制作を
一歩ずつめざしましょう

松生歩 教授

京都市立芸術大学大学院修了。山種美術館大賞展大賞、菅橋彦大賞展大賞、京都府文化賞奨励賞など受賞歴多数。文学や文章表現と絵画との融合を指向し自作の物語や詩と絵画による個展を中心に活動。



[美術科] 洋画コース

洋画コースではまず、「自分の眼と手」を尊重します。今まで見てきた「ものごと」の多くが世間の常識や一般的な知識であるなか、真に「見ることは何か」を探ります。見て描くことを自分の中に蓄積するうち、自己の表現したいことが形となって現れ、創造の面白さを知ることができます。ご自宅で絵具を広げ、描きかけの絵を眺める環境をつくるのは少々大変なことかもしれません。しかし、一歩を踏み出せば新しい世界が必ず待っています。



臆せず、気張らず、扉を開けて白いキャンバスを自分の世界に

奥田輝芳 教授

京都市立芸術大学大学院美術研究科油絵修了。2020年「natural vol.2」(ギャラリーヒルゲート)、2019年「DECADe」(galerie weissraum)等。



[美術科] 陶芸コース

陶芸という世界を通じて、生活に潤いを与える器をつくること、アートとして自己表現となる作品づくりが学べます。ただつくるための技術ではなく、それを使っていかに美しい形をつくりだすか、自分が表現したい形を実現するにはどうすればいいのか、ちったイメージを形にする勉強をするのが大きな目的です。まったく初めて土に触ろうとする人でも着実に勉強をすすめていけるカリキュラムを用意しています!



新しい技術、表現に挑み
火と土の可能性を探ります

西村充 准教授

大阪芸術大学芸術専攻科工芸専攻修了。器から立体まで陶による作品を制作。主に陶がみせるテクスチャーを意識したスラブによる作品を制作している。



[美術科] 染織コース

染めることや織ることを通して自分の可能性を見つめます。壁にかけるタピストリーから、コップの下に敷くコースター、衣服を彩る模様やかたち、絵画や彫刻のような自己表現までさまざまです。どのような染織を目指すか、色々な試みの中でみつけていきます。染織を通じてまずは自分を知ること、次に自分の得意な方法で社会に発信することを考えます。



自分の可能性や社会につながる染織の糸をたどりませんか

久田多恵 准教授

京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程修了。織作品を中心に、ニッティング、フェルティング、縫いなどの技法で繊維を素材とした造形作品発表を行う他、数多くの展覧会にも出品。



[美術科] 写真コース

写真コースでは、写真を記録と表現の両面から理解し、制作に取り組んでいきます。芸術系大学では数少ない写真専攻のひとつであり、体系的にしっかり学ぶことができます。単なる技術だけでなく、思考を重視してカリキュラムを開設します。また学習成果を積極的に世の中に発信していくすべについても学んでいきます。個展開催や写真集出版、海外での作品展示など実際に写真界で活躍し、注目されている作家を輩出しています。



世界の声に耳を傾け
その秘密を開示する
作品への第一歩を

勝又公仁彦 准教授

早稲田大学法学部卒業、「時間」「光」「場所」などをサブテーマに、写真の構造に触れるコンセプチャルな作品展開を続ける。東京国立近代美術館など国内外の主要なコレクションに作品が収蔵されている。

＼ Let's Back to School! ／

京都芸術大学 通信教育部へようこそ



[デザイン科] グラフィックデザインコース

日常にあふれる「デザイン」というジャンルを学ぶことは特別なことではありません。しかし、学ぶという行為はこれまでの自分を異なる方向から見つめ新たな道を切り開く原動力になります。それらの力はデザインの領域を超えて、あなたの仕事や生活、人生を豊かなものにできると信じています。少し視点を変えるだけで、大切なことや改善すべき問題、あるいは物事の本質や普遍のテーマをも発見できるでしょう。

上原英司 准教授

京都精華大学美術学部デザイン学科
ビジュアルコミュニケーションデザイン
専攻卒業。大日本印刷株式会社CDC
事業部入社。カタログやパンフレット、
カレンダーなどのペーパーメディアから
イベント企画、ウェブをはじめとするデ
ジタルコンテンツまで、企業のセールス
プロモーションのプランニングおよび
アートディレクションを数多く手掛ける。



問題を見つけ、解決策を
考えるデザインで、日常
の見方も変わります



[デザイン科] 建築デザインコース

建築は本来、衣食住の「住」にはじまるように誰もが身近な地域や環境を豊かにするために様々な実践が可能な領域です。学生としてだけでなく、家事や育児、介護といった実生活や、社会人として働く方の多い本コースでは、それぞれの生活意識や実感を生かしながら建築のデザインを学ぶことができます。大学で学んだ建築の知識や技術・思考する力を、それを環境、身近な誰かのために実践できる人になってもらいたいと願っています。

殿井環 専任講師

東京工業大学大学院建築学
専攻修了。山本理顕設計工場にて
アジア圏の様々なプロジェクトを担当。
2012年に殿井建築設計事務所を共同主宰。
日本建築学会作品選集新人賞等、国内外各賞を受賞。



世代や地域、職種を超えた
仲間が集まる環境で建築
を存分に学んでほしい



[デザイン科] ランドスケープデザインコース

「ランドスケープ=風景」はすでにそこにあり、すべてをゼロからデザインすることはできません。必要なのは既存の風景の「どこに目をつけ」、それを活かすために「何を除き、加えるか」といった広い意味での編集能力です。そのためには異業種で得た知識や技術、家庭や社会で培った経験など幅広い見識が大変役に立ちます。通信教育の利点を活かして、仕事や家庭を持っている方にこそチャレンジしていただきたいです。

稻田多喜夫 准教授

東京藝術大学卒業後、鈴木昌道造園研究所に在籍し、茨城県県庁舎、清瀬駅北口広場(東京)などのランドスケープデザインを担当。稻田ランドスケープデザイン事務所を立ち上げ、国内外のプロジェクトを担当。



野に花を、空に月を
みつけるそんな小さな
感動から自分のデザイン
を探してください



[デザイン科] 空間演出デザインコース

「空間演出デザイン」とは聞き慣れない言葉だと思いますが、決して特別なことではなく、皆さんの日常生活の延長にあるもの。身の回りを心地よくしようとする小さな取り組みも問題を解決しよう試みる「空間演出デザイン」といえます。だれもがはじめやすく、自らの経験を活かせる分野であり、かつ生活スタイルの変化にともなってついに成長をつづけるデザインです。興味のある方はぜひ気軽

に、その扉をノックしてください。



身のまわりを心地よく
する工夫もじつは「空
間演出デザイン」です



[デザイン科] イラストレーションコース

イラストレーションは誰でも簡単にはじめられて、イメージをダイレクトに表現できる手段です。イラストを描けると地域や言語はもちろん、時代を超えて様々な人とコミュニケーションをとることができます。プロの世界に挑戦するのも、自身の表現を突き詰めるのも自由です。是非、本コースであなた自身の感性を育てながら新しい可能性をみつけてください。

虎硬 准教授

イラストレーター、プロデューサー。
ピクシブ株式会社所属。制作実績に
バンド「神様、僕は気づいてしまった」メインビジュアル、株式会社
アニメイト企業ロゴなど。その他
Google+、TOYOTA プリウスなど
PR イラスト多数担当。



「イラストを
第二言語
に



博物館学芸員課程

学芸員の仕事は、知識や経験はもとより、さまざまな時代や地域、文化圏のものを見方や感性を受け入れ、ときにはそこから新しい価値を発見していく柔軟さが求められます。本課程は、年齢も住んでる地域も、経歴やバックグラウンドもさまざまです。

また、時間に有効に使いながら自分のペースで学習を進められる点も利点です。
やるべきことは少なくないですが、それで
もじっくりと時間をかけて腰を据えて学芸
員としての発想や思考を学べます!



全国の仲間と切磋琢磨
しながら資格取得が
目標れます!